

経営比較分析表（令和4年度決算）

長崎県 平戸市

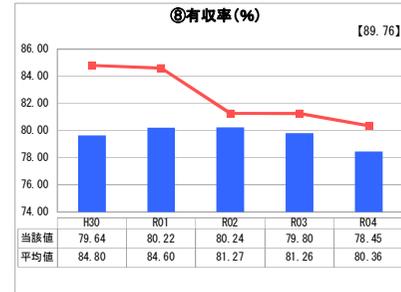
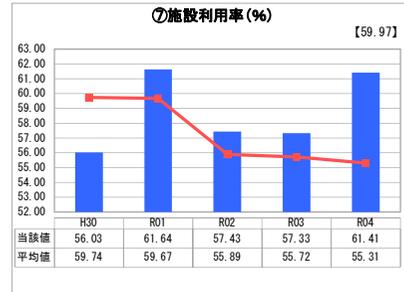
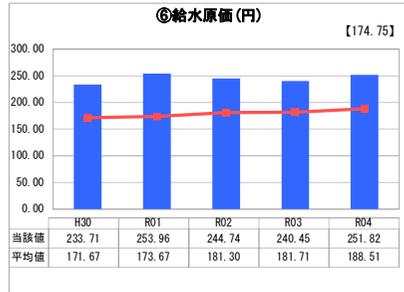
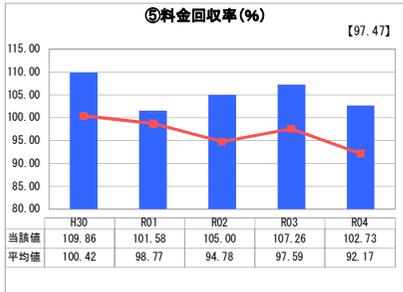
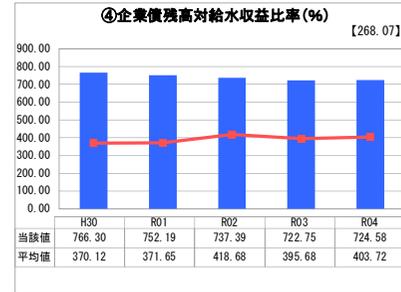
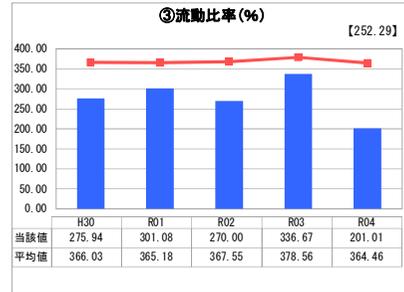
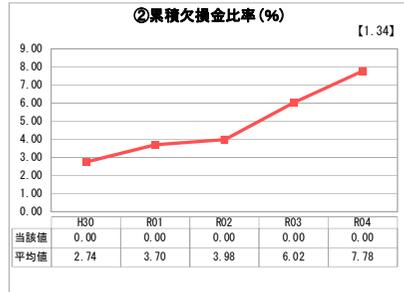
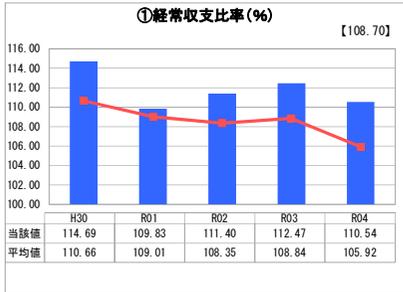
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	65.46	98.33	4,820	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,162	235.12	124.03
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
28,427	104.02	273.28

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

離島を有する本市は、起伏が激しい地形と小規模集落が広範囲にわたり点在し、また、水源が地下水、河川表流水など多様であることから、採算性、効率性に乏しい現状である。

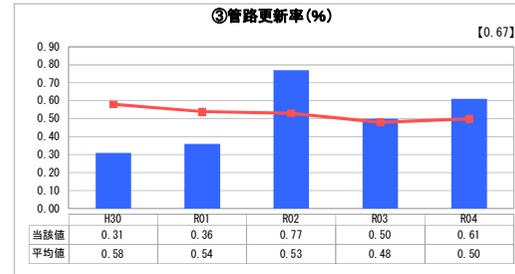
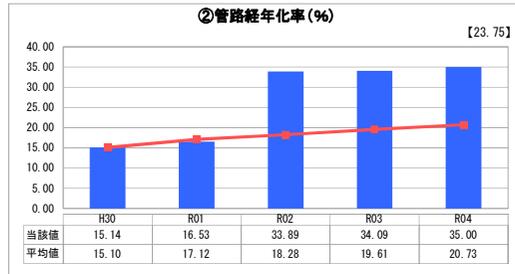
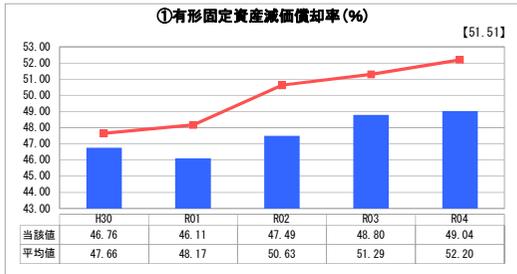
- 経常収支比率
資材や電力費の高騰等で費用が嵩んだものの、類団平均を上回っており、健全経営を続けている。今後も健全経営を維持するため、更なる経費削減に取り組む。
- 累積欠損金比率
現在0%であり今後も経営の健全性に努める。
- 流動比率
100%を超える数値で推移しており問題ない。
- 企業債権高対給水収益比率
本市特有の地理的条件に伴う整備費により類団平均を大幅に超える水準となっている。浄水場改修や未普及地域解消事業に伴い借入が例年を大きく上回り、増加に転じているが、今後も発行額の抑制に努めるなど高負の縮減を図る。
- 料金回収率
100%を超えており、類団平均を上回っている。今後も健全経営を維持するため、更なる経費削減に取り組んでいく。
- 給水原価
類団平均と比較すると依然として高水準で推移している。起伏が激しい地形と小規模集落が広範囲にわたり点在しているため、配水池等の施設が多く、動力費をはじめ維持管理費が多額となっているためである。
- 施設利用率
人口減少等による配水量の減少を受け、施設のダウンサイジングを図り改善に努めているが、R2以降新型コロナウイルスの影響で利用率が低下に転じていた。R4は新型コロナウイルスの第5類の影響からか配水量が増加し、数値も大幅に改善した。今後も施設の適正化等を図り改善に努める。
- 有収率
類団平均より下回る水準となっており、R2の80%を最後に以降有収率の低下が著しくなっている。今まで以上に漏水調査や管路の布設替えを行うなど、有収率の向上を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

耐用年数を迎えている施設も多く、漏水が多い地区や維持管理上、支障をきたしている施設を中心に更新を行っているが、抜本的な解決には至っていないのが現状である。

- 有形固定資産減価償却率
類団平均より低い水準ではあるものの、法定耐用年数を迎えた施設が多くなっている。施設の更新計画を策定するなどし、計画的な更新及び修理等による長寿命化を図る。
- 管路経年化率、管路更新率
管路経年化率については、類団平均を大幅に上回っており深刻な状況である。また、管路更新率は類団平均を超えているものの改善には至っておらず、今まで以上に計画的に更新を行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

人口減少や節水機器の普及等による給水収益の減少と、水道施設の維持・更新（老朽化対策）を含む維持管理費の増大が課題となっている。

今後も令和2年度に改定した経営戦略に沿って、中長期的な視点に立った施設の整備・更新を図り、安全で安心な水道水の安定的な供給を維持していく必要がある。